

《担当者名》 武田涼子 高橋尚明 佐々木祐二 坂上哲可

【概要】

補装具と補助具、義肢について講義と演習を実施する。

補装具の歴史、各補装具の構造と機能、ならびに支給に関わる諸制度について学修する。また、補装具の作成、装着、適合判定等の体験を通して、各種障害に適した補装具を処方できる基礎能力を養う。補助具については、歩行補助具と自助具、生活支援のための環境制御に関わる機器の構造と機能を学ぶとともに、その使用法について理解を深める。

切断と義肢について、切断に至る疾患と年代による切断者の変化、切断術を行った後の断端管理について学習する。大腿義足、下腿義足の基本構成とアライメントについて学ぶ。また、義足装着者の歩行の特徴について、健常者と比較した相違点と異常歩行について基本的な知識を学ぶ。

【学修目標】

一般目標

理学療法における補装具、自助具を介入手段として用いることができるようになるために、必要な制度を理解し、適切な補装具、自助具を選択できるようにする。また、適合判定に必要な項目について理解し、調整するための方法を説明することができる。

行動目標

1. 補装具と補助具の歴史について説明することができる。
2. 補装具と補助具を用途ごとに分類し、使用目的について説明できる。
3. 補装具と補助具の支給に関わる諸制度について説明できる。
4. 体幹装具、下肢装具、上肢装具の構造と機能、および対象となる障害を理解し説明できる。
5. 切断の原因疾患、切断者の年代的变化、男女比や切断者数について説明できる。
6. 切断術後の断端管理について、処置の方法と成熟断端に至るまでの変化、拘縮が生じやすい理由と拘縮が生じやすい肢位を理解し、説明できる。
7. 大腿義足と下腿義足の基本構成と、部品の名称と機能、ベンチアライメントとスタティックアライメントを理解し、説明できる。
8. 大腿義足と下腿義足を装着した歩行について知り、異常が生じる理由について学ぶ。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	・補装具と補助具の歴史 ・補装具と補助具の分類 ・補装具の支給に関わる制度 ・補装具の支給方法	・補装具と補助具の歴史について理解する。 ・現在使用されている補装具と補助具の種類について理解する。 ・補装具の支給に関わる社会制度を理解する。 ・補装具を申請し支給されるまでの流れと手続き方法を理解する。	高橋尚明
2	・歩行補助具の種類と用途 ・自助具の種類と用途	・歩行補助具の種類と用途（対象となる障害）について理解する。 ・自助具の種類と用途（対象となる障害）について理解する。	高橋尚明
3	・体幹装具の構造と機能	・胸部および腰部を中心に、体幹装具の種類と対象となる障害について理解する。	佐々木祐二
4	・体幹装具の構造と機能	・頸部および側彎症を中心に、体幹装具の種類と対象となる障害について理解する。	佐々木祐二
5	・下肢装具の構造と機能	・膝関節装具を中心に、下肢装具の種類と対象となる障害について理解する。	武田涼子
6	・下肢装具の構造と機能	・足関節装具を中心に、下肢装具の種類と対象となる障害について理解する。	武田涼子
7	・上肢装具の構造と機能	・肩関節、肘関節装具を中心に、下肢装具の種類と対象となる障害について理解する。	坂上哲可
8	・上肢装具の構造と機能	・手関節装具を中心に、下肢装具の種類と対象となる障害について理解する。	坂上哲可
9	切断術と義肢	切断に至る三大疾患と、切断者のプロフィールについて学ぶ。 切断部位と義肢の対応について学ぶ。	武田涼子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	断端管理	切断術後の断端管理について学ぶ。	武田涼子
11	大腿義足	大腿義足の構造と膝継手について学ぶ。	武田涼子
12	大腿義足	大腿義足のベンチアライメント、スタティックアライメントについて学ぶ。	武田涼子
13	下腿義足	下腿義足の構造と足継手について学ぶ。	武田涼子
14	下腿義足	下腿義足のベンチアライメント、スタティックアライメントについて学ぶ。	武田涼子
15	義足の異常歩行	大腿・下腿切断者の義足歩行について、一般的な歩行様式と異常歩行について学ぶ。	武田涼子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- ・定期試験100%（定期試験受験資格は学則に準ずる）
- ・定期試験および追再試験実施後、問い合わせがあった際には模範解答を開示する。

【教科書】

日本整形外科学会 他 監修 「義肢装具のチェックポイント 第8版」 医学書院 2014年
佐竹 将宏 他 編集 「理学療法テキスト 装具学（15レクチャーシリーズ）」 中山書店 2011年

【参考書】

講義内で提示予定

【学修の準備】

- ・教科書の指定章を読み、不明な運動学、解剖学関連専門用語について調べてから臨むこと。（予習20分）
- ・講義内で実施した練習問題や講義資料、講義メモを用いて理解を深めること。制度の名称、補装具の名称、分類方法、使用目的、適合判定項目、適用による利点と欠点について説明できるように講義内容を整理すること。（復習20分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

武田涼子（理学療法士）高橋尚明（理学療法士）佐々木祐二（理学療法士）坂上哲可（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士、作業療法士、義肢装具士、車椅子制作者としての実務経験を活かし、病態に適合する義肢及び補装具や自助具の種類、介入における使用方法についての講義を行う。また、補装具や車椅子の調整の、行政との関わりについて実践演習を行う。